

検証・浦和電車区事件の真実 No.16

民主化闘争情報 [号外] 2008年5月19日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

第16回 組合を辞めれば済むと思ってるのか！

Y氏(当該事件被害者)の「脱退表明」を受け、2001年2月13日～16日に浦和電車区分会は臨時職場集会を開催した。毎回の集会の進行は、概ね次の通りだった。

まず、進行役から発言を求められY氏が謝罪すると、参加している大勢の組合員が次々とY氏に罵声を浴びせた。そして、大声で罵倒したり嘲笑したりしながら組合脱退を表明するよう要求した。Y氏がやむを得ず「脱退します」と発言しても終わらず、「脱退すればそれで済むと思ってるのか！」などと糾弾した。言外に「会社を辞めろ」と脅迫しているに等しかった。中には、Y氏に同情している組合員もいたと思われるが、分会役員が厳しく発言をチェックしており、心ならずもY氏を非難する発言を強要されているようだった。

Y氏は、無理やりJR東労組脱退を表明させられたうえに、それでも許してもらえず、見せしめのように繰り返し糾弾されることが悔しくてならなかった。しかし会社に残るには我慢するしかなかった。逃げることも、反論することもできず、ひたすら耐えていた。

給料泥棒！お前は人間じゃない！

2月13日の集会では、上原、山田、小黒、大澗、斉藤の各被告や浦和支部のJ支部長ら20数名が出席、参加者から、「裏切り者！」「給料泥棒！」「主任を辞めろ！」「ボーナス返せ！」「お前は人間じゃない！」「ウソつき！」「薄汚い野郎だ！」など、人格を否定する下品な罵声をY氏に浴びせ掛けた。そして大澗被告より「脱退を表明しろ！」と迫られ、Y氏がやむを得ず参加者全員の前で「東労組を脱退します」と言った。今度は分会役員のNから「もっと大きな声で言えよ！」と怒鳴られ、大きな声で「辞めます」と言うと、Nは室内の時計を見て、「時分、現認！」と叫んだ。しかし、それでも治まらず、「組合を辞めるだけで終わりなのか！」「そんなにJR東海がいいのならJR東海に行けよ！」などとさらに糾弾された。明らかに「JR東労組を裏切ったからには会社を辞めて責任を取れ」と迫る趣旨の発言だった。Y氏は、組織的に自分を退職に追い込むつもりだと確信した。

副区長にボーナスの返金方法を相談

13時頃に集会が終了したが、怒声が頭を離れなかった。Y氏は、ボーナスを返上すれば組合が自分を許してくれるかも知れないと思い、14時過ぎの勤務開始まで時間があつたので、K副区長に「ボーナスを会社に返したいが、どうしたらよいか」と相談した。副区長が「なぜそんなことを聞くのか」と聞くと、Y氏は「『大勢の組合員に責められ、ボーナスは東労組が勝ち取ったものだからお前はもらう資格がない』と言われた」と力なく答えた。驚いた副区長は「ボーナスは社員に支払っているものだから、返さなくてよい」と答えた。副区長は「東労組はそこまで言っているのか」と思った。そんな非常識な脅しを真に受けてしまうほどに、Y氏は精神的に追い詰められてしまっていたのである。(次号に続く)